絵本の読み聞かせからの学び
保育者を志す学生の実習体験から

Learning from reading picture books to children
From practical experiences of students aspiring to be childcare workers

小熊 真弓

Mayumi OGUMA

キーワード：領域言葉　絵本の読み聞かせ　保育実習

1. はじめに

「保育内容の指導法・言葉」の授業では領域「言葉」のねらいと内容を理解し、子どもの言葉の発達の特性を捉えて、言葉の獲得につながるような保育を実践していくための方法を学ぶことを目的としている。

絵本に関する内容の授業では、言語文化財として絵本を取り上げ、その特性や読み聞かせの方法について学ぶ。

具体的には、まず学生が幼児期に出会った心に残っている絵本について、どのような理由から心に残っているのか、どのような内容が印象的であったかなど、絵本との出会いを振り返り考えてみる。印象に残っている絵本との出会いを分析することで、自分自身の絵本への思いを認識し、時を経て読み返したことで新たな感情や思い、気づきがもたらされる。

また、絵本を振り返ることで「子どもの頃の自分の思いを探り確かめることができて絵本への思いがより強くなった」、「絵本をより好きになった」などの感想が聞かれた。母親が与えてくれた思いに触れ、幼児期の自分への愛情に感動したり、与えてくれた人の気持ちに触れて改めて自分が大切にされていたと気付いたりする体験にもなっている。

このように自分の印象に残った絵本と向き合うことで、絵本から得たものを学ぶことができる。この体験を経て、実際に保育実習の場で子どもたちにどのような絵本を与えたいのか、絵本から何を伝えたいのか、明確な目的をもって絵本の読み聞かせをしてほしいと考える。

そこで、学生が実習で行った絵本の読み聞かせについて振り返り、どのような体験をしたのか、何に気付いたのか、課題をどのように捉えたのかなどの調査を行い、結果をまとめることで、学生自身が主体的に読み聞かせについて学び、読み聞かせのスキルが身につく方法を明らかにしたいと考えた。

2. 調査方法

千葉敬愛短期大学の「保育内容の指導法言葉」の授業を受けている学生140名に対し、質問紙による調査を行った。

調査期間中に実習に取り組んでいる学生がいたので、回収数は99部（回収率71％）であった。

3. 調査結果

(1) 実習で読んだ絵本のタイトル、対象年齢についてお書きください。

表１　読み聞かせした絵本のタイトル　回答者数　年齢

	絵本のタイトル	回答者数	年齢
1	もうぬげない	5	1，3，4
2	はじめてのおつかい	4	4，5
3	わたしのワンピース	4	3，4，5
4	へんしんトンネル	3	2，3，4，5
5	おふろだいすき	2	5
6	だるまさんが	2	0，1，2
7	くれよんのくろくんとちいさいしろくん	2	5
8	ぐるんぱのようちえん	2	3，4，5
9	めっきらもっきらどおんどん	2	5
10	もったいないばあさん	2	4，5
11	かばくんのさんぽ	1	1
12	あおくんときいろちゃん	1	2
13	くだもの	1	2
14	こんたのおつかい	1	3
15	たべてあげる	1	3
16	うずらちゃんのかくれんぼ	1	3
17	ぞうくんのあめふりさんぽ	1	3
18	へんしんかいじゅう	1	3
19	はらぺこあおむし	1	3
20	カメレオンのかきごおりや	1	4
21	そらまめくんのベッド	1	4
22	カマキリくん	1	4
23	ぐりとぐら	1	4
24	どうぶつサーカスはじまるよ	1	4
25	そらいろのたね	1	4
26	しろくまのパンツ	1	4
27	くまくまパン	1	4
28	おしごとおしごとなににする？	1	4
29	おおきなかぶ	1	4
30	10かいだてのいえ	1	4
31	はなびのひ	1	4
32	2ひきのかえる	1	4
33	おもちのかいすいよく	1	5
34	パンどろぼう	1	5
35	スイミー	1	5
36	だるまちゃんとかみなりちゃん	1	5
37	おおきくなるっていうことは	1	5
38	どろんこハリー	1	5
39	よかったねネッドくん	1	5
40	どうぞのいす	1	5
41	りんごかもしれない	1	5
42	むしたちのうんどうかい	1	5
43	もりのせんたくやさん	1	5
44	だるまさんが	1	0，1
45	だるまさんの	1	0，1
46	たまごのうた	1	0，1
47	3びきやぎのがらがらどん	1	1，2，3，4，5
48	くいしんぼうさぎ	1	3，4
49	ねこのピート	1	3，4
50	ぐりとぐらのえんそく	1	3，4，5
51	どうぶつしんちょうそくてい	1	3，4，5
52	ねこのピートだいすきなしろいくつ	1	3，4，5
53	こんとあき	1	3，4，5
54	わたしのうみべ	1	4，5
55	カラスのパン屋さん	1	4，5
56	マルマくん、かえるになる	1	4，5
57	アップルおばさんのアップルパイ	1	4，5
58	まゆちゃんのながいかみ	1	4，5
59	おまえうまそうだな	1	4，5
60	絵のない絵本	1	4，5
61	ホットケーキはみんなだいすき	1	未回答

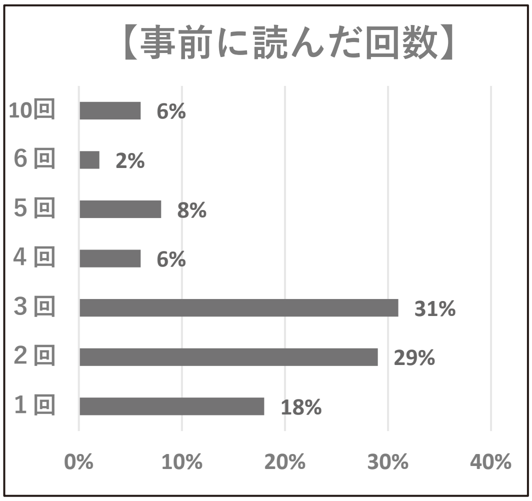
実習で読み聞かせをした対象児の年齢は0歳児から5歳児と広範囲であった。また読み聞かせした絵本についても、それぞれの年齢に応じて様々な絵本が選ばれていた。

同じ絵本を選んだ学生でも対象年齢が違ったり、異年齢・合同で読んだことから複数の年齢を回答したりしている。

絵本の内容を見ると、子どもが楽しいと感じられる題材が多い。読みながら子どもが声を出したり答えたりできる絵本、子どもが絵本と自分を比べてみることのできる絵本、繰り返しのある絵本、自分たちの生活につながる絵本、読み聞かせを聞いて考えることのできる絵本などを取り上げていることがわかる。このことから学生は、実習では子どもに興味や関心をもってもらいたいという願いをもって絵本を選んでいるものと思われる。

(2) 事前に読んだ回数はどれくらいですか。

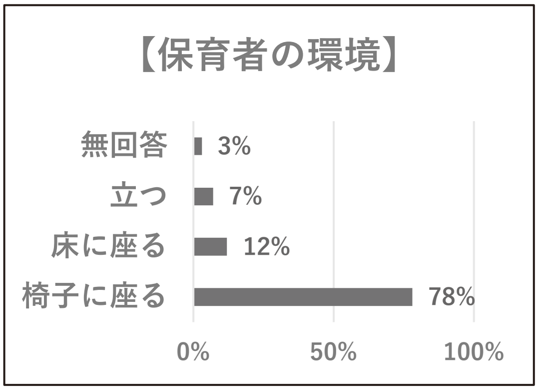
表2　事前に読んだ回数

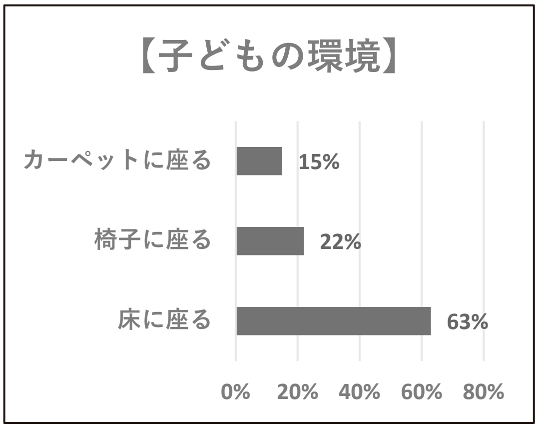


この質問には回答数が大きく分かれた。1～3回までと回答した学生が78％、4～10回までと回答した学生が22％となっている。子どもの前で絵本を読むには自信をもって読めるように事前に練習することはわかっているが、実習中であることから絵本の読み聞かせに十分な時間を取れないという実態が読み取れる。しかし1割弱の学生は6回以上読んでおり、努力が認められる。

(3) 読み聞かせの際の環境として、座り方はどのようにしましたか。

表3　読み聞かせの環境





保育者として読み聞かせを行った学生は、主に椅子に座って読んでいる。また、子どもは床に直接座ったり、カーペットやゴザ、マットなどに座ったりしている。子どもの発達からみると椅子に座って絵本を見ているのは主に4、5歳児であり、乳児は午睡前だと布団に座るなどの状態であることがわかる。

(4) 読み方でどのようは配慮をしましたか。

表4　読み聞かせの際の配慮事項

読む早さ	人数
ゆっくり読む、絵を見る時間をとる	44
子どもの反応を見ながらページをめくった	23
全体に聞こえるように読んだ	36
子どもと絵本の内容について会話しながら読んだ	17
抑揚、強弱、リズムに配慮して読んだ	17
子どもが参加できるように読んだ	8
子どもの顔を見て読んだ	8
絵本の内容に合わせた雰囲気を考えて読んだ	7
登場人物によって声色を変えた	7
抑揚をつけず自然に読んだ	3
優しく落ち着いた雰囲気で読んだ	2
読んだ後に感想を聞かないようにした	2
繰り返しの部分は丁寧に読んだ	1

持ち方	人数
皆が見えるように絵本を持った（角度、高さ）	16
絵本がぶれないように持った	6
絵本が見えなくならないようにページをめくった	3
表紙と裏表紙を開いて見せた	2
自分の姿勢を考えた	2

環境	人数
全員が見える位置を考えた	15
集中できるよう導入に手遊びなどをした	7
皆が落ち着いたことを確認してから始めた	3
絵本に集中できる場を選んだ	1

＊数値は複数回答の人数を表している。

読む早さとしては、子どもの反応を見ながら読む速度や読み方を配慮しようとしたことが表れている。

読み方では、声の大きさ、強弱、抑揚などを考慮して読んでいることがわかる。登場人物になって声色を変えて読む学生がいる反面、抑揚をつけずに自然に読むことを意識したという学生もいる。

絵本の持ち方としては、絵が全員に見えるように配慮したり、絵本がぶれないように意識したりしたことがわかる。

(5) 子どもの反応はどうでしたか。

表5　子どもの反応

子どもの反応の内容	人数
笑うなどして楽しみながら見ていた	38
集中して見ていた	29
答えるなどして参加しながら見ていた	30
読み終わった後感想や本の内容を話していた	28
もう1回読んでほしいと言った	6
次の場面を予測していた	4
絵本の中の動作をしていた（0，1歳児）	2
集中が切れてしまった	2
読み聞かせの後自分たちで読んでいた	1

＊数値は複数回答の人数を表している。

全体的には、子どもが楽しんで見ていた、集中していたなどの好ましい反応が見られている。もう一度読んでほしいという反応やその後自分たちで読み始めるなどの反応は、努力が報われる嬉しい反応である。一方で集中が切れてしまったという原因は、読み聞かせ前の手遊びで盛り上げすぎてしまい、絵本に集中できなかったという反省が出されている。

(6) 読み聞かせの後、どのように振り返りましたか。

表6　読み聞かせ後の振り返り

読み方	人数
担任から指導を受けた	11
もっとゆっくり読むとよかった	11
子どもの声に反応した方がよかったか迷った	6
強弱、声の大きさ、抑揚について考えた	5
子どもが楽しめるように読めた	4
絵本を読んだことで落ち着いて次の活動に移ることができた	3
読んでいる際の子どもの反応に対応するか迷った	2
子どもの反応に対応しすぎてしまい落ち着かなくなった	2
ページをめくるタイミングを考え絵がしっかり見られるようにする	2
絵本の内容に関連して思いやりの心が育つように言葉をかけた	1

読み方	人数
読む早さやについて考えた	1
登場人物になりきって読んだが、子どもの想像力を奪っていないか心配になった	1
ねらいを考えて読み、評価し次の課題につなげた	1
絵本の内容に合った読み方をする	1
大きな声でハキハキ読めた	1

その他	人数
全体に見えやすいような読む位置を考える	8
絵本の持ち方について考えた	6
子どもの表情を見ることができなかった	5
絵本の内容をその後の生活につなげていた	5
子どもの様子を思い出し家で振り返った	4
導入の仕方を工夫するとよかった	3
1回きりでなく何度も読んでもよいと思った	2
次の活動へのつなげ方を学びたい	2
読んだ後の終わり方を考えるとよかった	2
絵本が小さかったため見えにくいようだった	2
家で練習した	2
読む練習が必要と思った	1
年齢にあった絵本かどうか	1
子どもの気持ちを考えられなかった	1
子どもが興味のある絵本を調べた	1
もっといろいろな絵本を読んであげたい	1
もう一度実践してみた	1

＊数値は複数回答の人数を表している。

読み聞かせをした後の振り返りについては、読む際の声の大きさや強弱、抑揚など自分の読み方に関する反省が多い。「緊張したことにより早く読んでしまった」、「子どもの反応を受け止められなかった」、「子どもの反応に対してどのように対応したらよいかわからなかった」などの反省もある。学生が絵本を見ている子どもの反応を予測しきれなかったり、子どもの思いを取り上げることに慣れていなかったりしたことが原因と思われる。

読み聞かせの後に担任と振り返ったという記述があったが、この文章では内容が把握できなかった。具体的に何を振り返ったのかについて回答できるような方法にすると振り返りの内容が明らかになった。

ねらいや評価、課題をしっかりと考えられた、子どもの気持ちや想像力について考えられたなど、自分の保育を振り返り具体的な反省を出すことができていることは評価できる。

(7) 次に行うときはどんなことに気を付けようと思いますか

表7　次の読み聞かせの課題

読み方	人数
声の大きさ、強弱、抑揚を考える	16
子どもの反応を見ながら読む	15
早くならないように読む	13
読み終わった後に絵本の世界観を楽しめるよう工夫したい	9
絵本の世界を感じられるように読む	8
スムーズに、絵本の内容に合わせてページをめくる	7
登場人物や絵本の内容を考えて読む	5
事前に何度も読み、慣れておく	3
年齢にあったものを読む	3
子どもの想像がふくらむような読み方、援助を考えたい	2

その他	人数
読む際の環境を考える（保育者と子どもの位置、背景など）	12
絵本の選び方を考える（年齢、季節、子どもの興味に合うもの）	9
絵本の持ち方を学ぶ	4
全体で見るときの絵本の大きさを考える	4
読んだ内容が日々の生活につながるようにしたい	3
導入の仕方を工夫し、集中できるようにする	2

＊数値は複数回答の人数を表している。

読み方についての反省が多かったが、課題では子どもの気持ちを考えることや絵本から何を伝えるか、絵本をその後の生活につなげていこうなどと考える姿が表れている。読み聞かせをする目的についてより深く考える姿勢が表れている。

(8) 事前に学んでおけばよかった、知っておきたかったことなどはありますか。

表８　学んでおくとよかったこと

読み方	人数
絵本を読む練習を十分行う	9
声の大きさ、抑揚のつけ方など、絵本の内容に合った読み方を学ぶ	7
落ち着いて絵本を見られるよう、導入で集中できるよう手遊びなどを学ぶ	6
絵だけのページはどのようにしたらよいか学んでおくとよかった	1

その他	人数
年齢や季節に合うものなど様々な絵本を知る	12
子どもの興味や関心などの実態を知っておき絵本を選ぶ	8
読み終わった後の余韻を考えた終わり方を考える	7
ページのスムーズなめくり方を学ぶ	4
同じ作家やシリーズなどの絵本を知っておき次の機会に読む	2
絵本から何を伝えたいのかを考えておく	1
絵本の持ち方を練習しておく	1
読む際の環境について学びたい	1
絵本の選び方を学ぶ	1
習ったことが役立った、特になし	41

＊数値は複数回答の人数を表している。

この質問に対しては絵本の読み方以外に子どもの実態や季節に合った絵本の選択、導入の仕方などが挙げられている。実際に読み聞かせをして子どもの反応に触れたからこそ学んでおきたかったことが明らかになっている。また、授業で学んだことが役に立った、特になしと回答した学生が41％であることから、絵本の読み聞かせに対して自分なりに学んで準備したことが実践できたという満足感をもっていると捉えられる。

4. まとめ

(1) 授業からの学び

絵本の読み聞かせについて学生は授業では次のような内容を学んでいる。

①読み聞かせの導入
- 子どもが集中できるような遊びを取り入れる。（手遊び、クイズなど）

②読み方
- 登場人物や内容は子どもが自らの想像をふくらませて感じ取るので、過剰な演じ方をせずに読む。
- 読み手は落ち着いた雰囲気を大切にし、感情などは一方的に決めつけて読まないようにする。
- 読んでいる際は、途中で説明などはせずに絵本に忠実に進める。
- 読み終わった後の余韻を大切にし、すぐに感想を求めない。
- 絵本のタイトル、作者名を読み、表・裏紙を見せる。
- 子どもの反応に合わせてページをめくる。
- ページのめくり方は子どもが絵を見やすいようにめくる。

③環境
- 背景はできるだけ何もない環境、光が入らないかなどに配慮する。子どもの目線を考えて高さや座る場所などを考える。

これらの内容を理解しながら、絵本を持ち寄って読んだり発表したりする経験をして保育実習に取り組み、振り返り課題を明らかにしている。

(2) 課題

実際に保育実習で行った絵本の読み聞かせの結果から、多くの反省や課題が挙げられた。「読み聞かせをして子どもたちが喜んでくれた」、「また読んでと言われたことに感激した」などの言葉から、実習への意欲が高まったことがわかる。

一方、学生が自前に学んでおくべきだったと振り返ったことは次の３点に絞られる。

①読む声の大きさは学生が思うよりも実際に聞いている人からすると小さく感じられるので

適度な声の大きさを人に聞いてもらって学ぶ。
②子どもの前で行うと緊張して早めに読んでしまったり、絵本がぶれてしまったり、子どもの顔や反応も見られなかったりした。そこで、人前で読む経験を積み読む練習を十分行う。
③読み終わった後、どのようにしたらよいか考えられていなかったので、事前に絵本から何を伝えたいのかを考え、終わり方まで考えておく。

これらの課題については、さらに授業で取り組んでいきたい。

(3) 今後の取り組み

絵本の読み聞かせは講義を受けるだけでは十分に身につかない。絵本選びから始まり、どれだけ読み込むか、導入や伝えたいこと、終わり方など、指導案を作ってじっくりと向き合う必要がある。作成した指導案通りに実践し、その後反省を生かしてもう一度指導案を考えるとより自分の課題がはっきりしてくると言える。

また、授業で読み聞かせを実践し合った際、自分がちょうどよいと思った「間合い」は、聞き手になると違ってくるという気づきがあった。他の学生の読み聞かせを聞いて気づくことがわかったので、読み聞かせを聞き合う経験を積む必要がある。

さらに読み聞かせを学生同士で行うと、他の人の絵本への思いに触れ、自分の視野が広がる、様々な絵本を知る、読み聞かせに慣れてくるなど多くの発見がある。読み聞かせを発表し合い、互いに良かった点や気づいたことを話し合うことが知識を得るだけではなく学生自身が課題に気づき、主体的に学ぶ姿勢につながる。このような学びができれば学生の読み聞かせのスキルは身についていくと考える。

実習後に学生が課題と感じたことの中に、「授業で学んだとことだが自信がなく活かせなかった」、「読み方に悩んでしまい解決できなかった」などがあった。これらの反省や課題に対しては、実態に応じて教えたり、学生同士で考え話し合ったりして、絵本の読み聞かせを学べるようにしたい。

本学の図書館には多くの絵本が所蔵されている。学生が積極的に図書館を利用し、子どもに読んであげたいと思う絵本を自らの手で選び、自信をもって絵本の読み聞かせができることを願う。